

豊岡で暮らす価値を磨く



豊岡市長 中 貝 宗 治

年 あいさつ

あけましておめでとうございます。

一年を通して、市民の皆さまの笑顔があふれ、子どもたちの笑い声が響きますように。

豊岡にはさまざまな課題があり、その解決に日々努力していくことは当然です。が、同時に市全体としてはどのようなまちを目指していくのか。昨年、その方向性を「豊岡市基本構想」に定めました。「小さな世界都市・ローカル&グローバルシティー」を創る」です。「小さな」を「ローカル」と訳しています。基本構想期間の12年をかけて、実現を図ります。

東京や大都市が偉くて、人口規模の小さなまちは偉くない。大企業が偉くて中小零細企業は偉くない。私たちの体に染みついたその価値の序列を壊すために、豊岡に深く根差しながら、東京を飛び越えて世界で輝き、小さくてもいいのだ、という堂々とした態度のまちを創ろうということなのです。

実現可能性は、見えてきました。

外国人宿泊客数は、城崎温泉を中心に市全体で増加しています。豊岡の伝統的まち並みや文化が魅力となって、世界の人々をひき付けています。永楽館歌舞伎には、昨年、ウィーンからもお客さまがありました。

コウノトリは豊岡ではありふれた存在になってきましたが、世界は驚いています。この2年間だけでも、フランス、香港、メキシコ、イスラエル、インドネシア、ブルネイへの招待があ

り、私や職員が講演に行っています。アフリカ・モロッコからも招待が届きました。

城崎国際アートセンターには、国内はもとより世界中から優れたアーティストが滞在制作を目的に続々とやってくるようになりました。現代音楽の世界最高峰の楽団もダンサーと共にやってきました。来年度の滞在制作は、世界23カ国、94の団体から応募があり、そのうち54が海外からでした。

世界最高レベルの工業デザイン賞を受賞するカバンのデザイナーが誕生し、高品質の木製ハンガーをニューヨークや香港に輸出する企業も出てきました。コウノトリ米もニューヨーク、香港への輸出が始まっています。

こうした中、市の芸術文化参与であり、日本を代表する劇作家・平田オリザさんが、豊岡へ移住し、主宰する劇団の本拠を豊岡に移転する計画であることを公表されました。

兵庫県では、専門家の検討会で、観光マネジメントと文化マネジメントを系列とする4年制の専門職大学の設置に向けた構想づくりが進められています。全国はもちろん世界から学生を集める、突き抜けたものにしよという意気込みで、遅くとも2021年度の開学を目指しています。

もちろん、課題はたくさんあります。皆さまと力を合わせて解決しながら、豊岡で暮らすことの価値をさらに磨いてまいります。

新 年頭のご



豊岡市議会議員 嶋崎 宏之

人口減少傾向の緩和と地域活力維持を！

明けましておめでとうございます。
市民の皆さまには、ご家族おそろいで輝かしい初春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて、昨年10月に市議会議員選挙が行われ、5期目の議会がスタートしました。今後4年間、議員一丸となって皆さまの負託に応えるべく、誠心誠意暮らしやすいまちづくりのためにまい進してまいります。

昨年は9月17・18日の台風18号をはじめ、10月22日の台風21号、その後の台風22号と矢継ぎ早に台風が本市に接近し、大きな被害をもたらしました。

近年は海水温の上昇等により、台風が大型化・長寿化し、線状降水帯が多発し、記録的短時間大雨情報が発しています。全国各地で河川の氾濫や土石流、土砂災害が後を絶ちません。突風、竜巻など瞬間最大風速の猛烈化など極端気象がますます顕著になってきております。10km程度の浅い震源域の大型地震の頻発など、災害のパターンが以前と比べてまるで異なったものになってきております。災害への対応を見直すべき段階に入ってきているのではないかと思われま

す。
一方で、日本経済を支えてきたものづくりの信頼性を根本から揺るがす事態が、連続して出てまいりました。昨年の秋以降、大手金属メー

カーの子会社の検査データの改ざん問題に端を発し、自動車メーカーの無資格者による完成検査など、不正が発覚しています。日本ブランドの信頼回復には、かなりの時間がかかりそうです。信頼性が特に要求される分野でのデータ改ざんだけに、厳しい対応が求められています。改めて、企業コンプライアンスの在り方が問われています。

今年も地方創生の中心課題であります人口減少対策にしっかりと取り組んでいかなければなりません。具体的には、減少要因そのもの手を付けることで、定住する若者を増やす、結婚する若者を増やす、それを対策の柱に据えることです。合計特殊出生率を現在の1・82から2035年までに2・3に引き上げる。若者回復率を現在の39・5%から2025年までに50%に引き上げる。これらのことにより、2040年の目標人口を62165人に設定する。そして、同時に地域活力を維持する対策を進める必要があります。大きな岐路である今年、市民の皆さま、議会、市当局が三位一体となって共に頑張つてまいりたいと願うものです。

市民の皆さまのより一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆さまにとりまして、幸せ多い年でありませうよう心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

〔写真：北近畿豊岡自動車道「日高神鍋高原インターチェンジ」(宍田城跡から)〕